おおすみスマートエネルギー株式会社

採用モデル：INACOMEビジネスコンテスト2024 最優秀賞

休耕田を活用した「どじょう養殖事業」

地方創生と食糧安全保障の確立

再生可能エネルギー×養殖による新たな農地活用モデル
次世代へ継承するための社会的投資

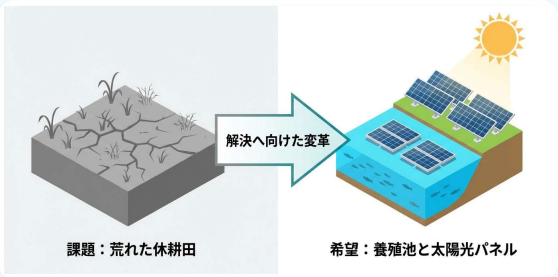
事業者代表:
村上 博紀（Hiroki Murakami）

技術協力・アライアンスパートナー
DJプロジェクト株式会社
代表取締役 嶋崎 成

おおすみスマートエネルギー株式会社

事業の背景と社会的意義

日本の農山間地域が直面する構造的危機に対し、休耕田を活用した新たな養殖事業を通じて、農地の資産価値を再定義し、持続可能な地域経済の循環を創出します。



課題と現状

① **耕作放棄地の増大**

高齢化と過疎化の進行により、かつての豊かな里山風景が失われつつある危機的状況。

② **食糧自給率の低下**

カロリーベースでという、**38%** 国家存立を脅かす水準まで低下。

③ **米作の低収益性**

中山間地域における収入は **10万円** 程度。
多くの農家が赤字経営を余儀なくされ、農地が「負の遺産」化。

休耕田活用
どじょう養殖

解決の方向性

① **休耕田の資産化**

既存インフラを活かし、大規模造成なしで「どじょう養殖池」へ転換。農地の価値を再構築。

② **持続可能な軽作業モデル**

餌やりと水管理を中心としたオペレーションで、高齢者や過疎地でも継続可能な事業を実現。

③ **地方創生と食糧安保**

地域所得の向上と、有事の際の動物性タンパク質供給源の確保を同時に達成。

おおすみスマートエネルギー株式会社

ビジネスモデルと独自の強み（USP）

INACOMEビジネスコンテスト2024 最優秀賞受賞

本事業の中核は「休耕田活用型どじょう養殖モデル」です。既存の農地インフラを最大限に活用し、低投資かつ短期間での収益化を実現します。この革新的なモデルは、農林水産省が支援する起業プラットフォームにおいても高く評価され、地方創生の新たな切り札として注目を集めています。

参入障壁の低さ

初心者でも参入可能な7つの理由

- 既存インフラ（休耕田）の転用
- 極めて低い初期・運用コスト
- 年2回出荷の高速キャッシュフロー
- 高齢者も可能な軽作業モデル
- 国産ブランドによる高単価設定

全量買取保証

リスクヘッジと金融の裏付け

生産されたどじょうはDJプロジェクトが全量を買い取ります。これにより生産者は「売れないリスク」から解放され、生産に専念できます。 また、この仕組みにより生物資産が「確定債権」に近い資産となり、金融機関からの融資も受けやすくなります。

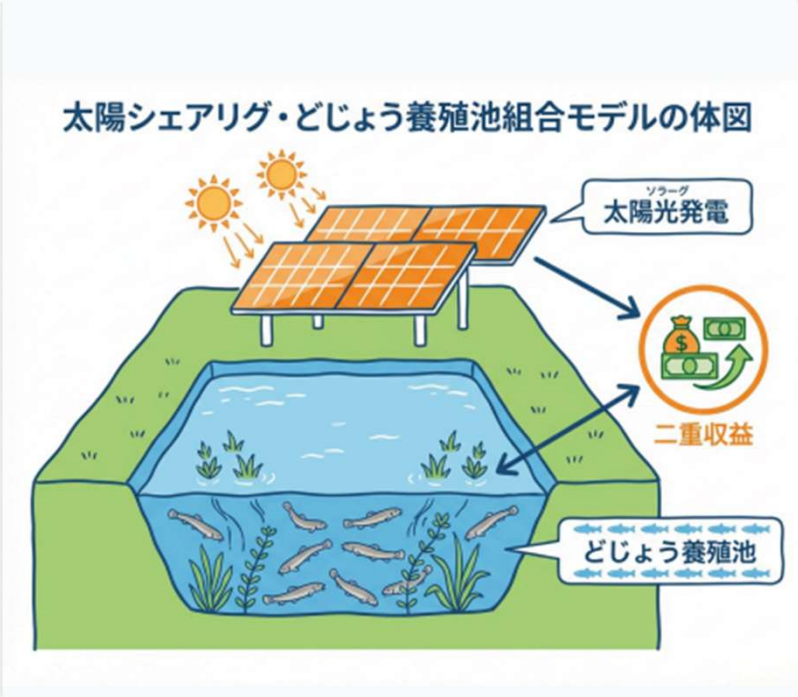
エネルギー×農業

おおすみスマートエネルギーとのシナジー

- 養殖池上部への太陽光パネル設置
- 再生可能エネルギー発電とのハイブリッド
- 土地利用効率の最大化（ソーラーシェアリング）
- 養殖池の温度管理（適度な遮光効果）
- 二重収益構造（売電/自家消費 ＋ 養殖）

おおすみスマートエネルギー株式会社

エネルギー×農業のシナジー効果



休耕田を活用した「ソーラーシェアリング×養殖」モデル図解

BUSINESS CONCEPT

1つの土地

太陽光発電
エネルギー収益

どじょう養殖
食糧生産収益

2倍
収益機会

再生可能エネルギー発電
売電収入の確保と自家消費電力によるコスト削減

二重収益構造
天候リスクを相互補完し、経営の安定性を向上

食糧生産（タンパク質）
希少な国産どじょうの安定供給体制を構築

養殖池の温度管理
パネルの適度な遮光効果で水温上昇を抑制

土地利用効率の最大化
休耕田を立体的・複合的に活用し価値を再生

地方創生 × 脱炭素
地域経済活性化とSDGsへの多面的貢献

おおすみスマートエネルギー株式会社

市場分析と競争優位性

価格優位性

供給の大半を占める中国産に対し、国産ブランドは圧倒的な希少価値を持ちます。

卸売価格比較（/kg）

中国産		国産
¥4,500	VS	¥7,000

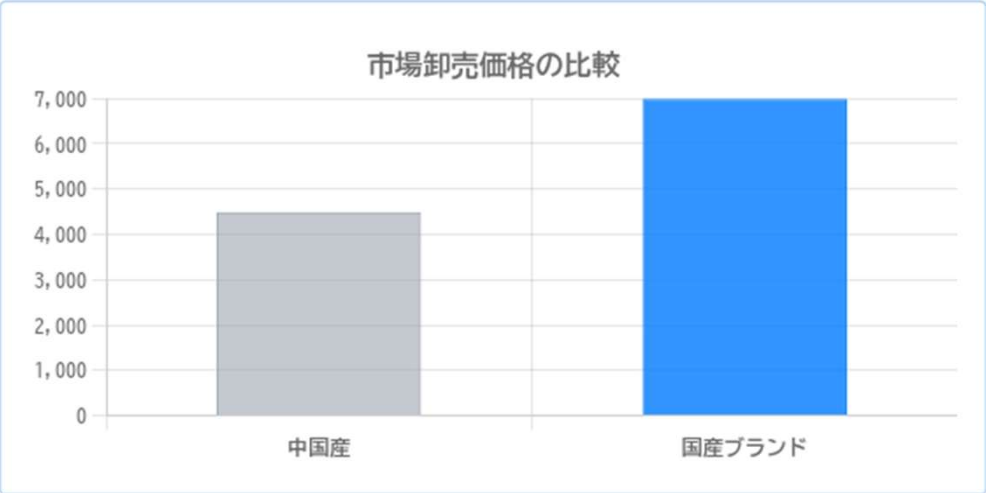
スーパーフード

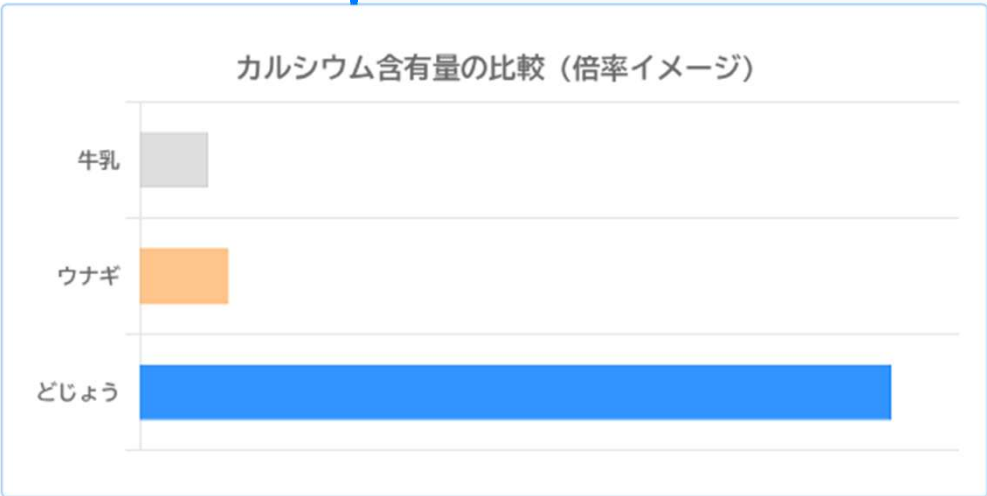
「日本の健康食品」として再定義。既存の高級魚を凌駕する栄養価を誇ります。

カルシウム	ウナギの 約9倍
ビタミン	B群・A・Dが豊富
脂質構成	高タンパク・低脂肪

ターゲット戦略

1. ウナギ代替需要
   価格高騰・稚魚不足のウナギに代わる新提案
2. 海外輸出（韓国）
   どじょう食文化圏への輸出ルート確保
3. 高付加価値加工
   粉末サプリ化による物流効率化と利益最大化





おおすみスマートエネルギー株式会社

収益モデルと投資回収

休耕田を活用した養殖モデルは、大規模な造成工事が不要なため初期投資を低く抑えられます。さらに、年2回の出荷サイクルにより米作の10倍以上の収益性を実現します。

初期投資（1反あたり）：合計 103.4万円

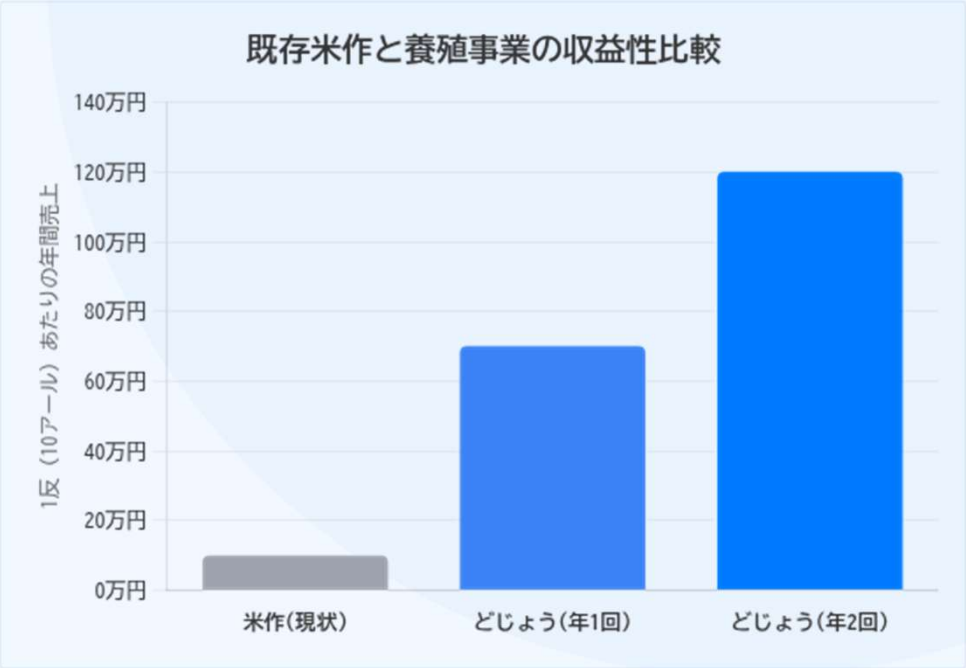
防水シート：27.6万円 / 器材等：15万円
指導料：20万円
稚魚（約3万尾）：27万円 / 飼料：13.8万円

売上シミュレーション（年間）

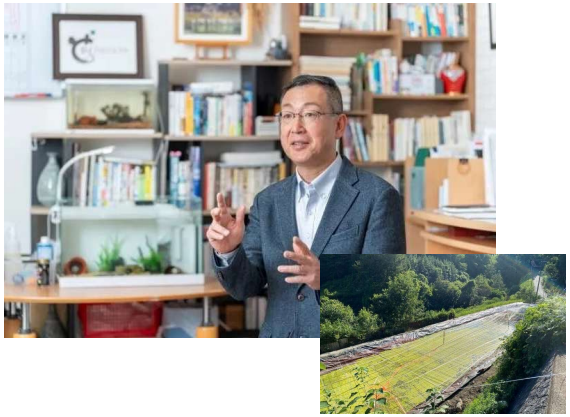
保守モデル（年1回出荷）：約70万円
目標モデル（年2回出荷）：約120万円

投資回収とキャッシュフロー

約4ヶ月で出荷サイズに成長するため、初年度から現金収入が発生。最短で1.0〜1.5年での投資回収が可能です。



技術協力パートナー紹介



嶋崎 成 DJプロジェクト株式会社 代表取締役

25年以上にわたり「食と農」の最前線でキャリアを構築。出版業界を経て、京都・伏見や琵琶湖の農業塾にて不耕起栽培やアクアポニックスを深く研究。現場での試行錯誤と、耕作放棄地という社会課題への深い洞察が、本事業の革新的な養殖モデルの原点となっています。

Media: Newsweek日本版（2025年3月掲載）「どじょうが日本の原風景を救う」

実績・評価

ビジネスモデルの確立と受賞歴

INACOMEビジネスコンテスト2024 **最優秀賞**

農林水産省プラットフォームでの高評価

「休耕田活用型どじょう養殖モデル」の確立

再現性の高い事業スキームの構築

技術力・ノウハウ

現場実証に基づく独自技術

4ヶ月での高速育成サイクルの実現

全量買取システムによるリスクヘッジ

奈良・京都での実証実験データに基づく指導

初心者でも運用可能なオペレーション構築

ビジョン・展望

地方を「成長産業」へ

韓国等の国際食文化（チュオタン）への知見

どじょうの「スーパーフード」化と再興

零細農業から**高付加価値産業**への転換

日本の原風景を守りつつ経済発展を実現